

第3期上下水道事業経営委員会（第2回）の主な質疑

平成31年2月27日（水）10時00分～11時45分

上下水道局3階301会議室

質 疑		答 弁	
【1 平成31年度予算(案)について】			
A 委員	簡易水道事業は水道事業へ統合したの でよいか。	上下 水道局	旧簡易水道事業は、平成29年度に水道事業に経 営統合している。浄水場等の施設は従来通り使 用しており、会計上の統合である。
A 委員	新設加入金は、宅地開発の計画などを基 に算定しているのか。	上下 水道局	民間の宅地開発等を勘案して算定している。平 成30年度は志貴野地区や高岡やぶなみ駅周辺な ど大規模な造成があったが、31年度の新設加入 金は減少を見込んでいる。
B 委員	省エネ化について、自律的、または国な どから設定された目標は。	上下 水道局	当市の上下水道事業はエネルギー消費量も高 く、国が定める特定事業者に指定されている。 経産省からは毎年、前年比マイナス1%の省エ ネに取り組むよう指導を受けている。 水道事業に関しては県から受水し高低差を利用 した配水方式のため比較的電力使用量は少量で あるが、下水道事業は下水処理にかかる機械設 備も多く、エネルギー消費量は高い。省エネ対 策として設備更新の際は省エネ性に優れた機械 設備を導入するなど、使用エネルギーの抑制を 図っている。
B 委員	照明のLED化は各施設で全面的に実 施するのか。投資効果の見通しは。	上下 水道局	現在使用している水銀灯や蛍光灯は今後生産停 止の見通しもあり、庁舎・各施設のLED化に 踏み切ることにした。試算では蛍光灯等をLE Dに切り替えることによる省エネ効果で7年程 度で投下コストを回収できると見込んでいる。
C 委員	下水道未普及地域の解消の進捗は。	上下 水道局	おおむね計画通り進んでいるが、現在は住宅密 度の低い農村部・山間部を整備していることも あり、普及率の伸びは鈍化している。
C 委員	公共インフラの維持管理・整備の持続性 は行政サービスの根幹だと考える。 工事の入札について、競争原理が適正に 働き、技術の継承を推進できる発注方法 に努めているか。	上下 水道局	工事請負業者は、規模や技術力等に応じてラン ク分けして入札を実施している。また、債務負 担行為を活用し、年間を通して発注件数の平準 化に努めている。

質 疑	答 弁		
【 2 水道法改正について】			
C 委員	広域連携と官民連携について、呉西6市で設置した検討会の状況は。	上下 水道局	今年度は検討会を2回開催した。現在は、6市に加え、用水供給事業者である富山県企業局と砺波広域圏事務組合も参加している。各団体の経営状態や業務委託状況等の情報共有を図りながら、呉西圏域における水道事業の効率的な運用について研究・検討しているところである。
C 委員	広域化や官民連携による将来的な人口減少を見据えた上下水道事業の効率化を図るべきという議論は避けられないことと思うが、各市の規模や地理的な要因など、温度差があるのではないか。	上下 水道局	改正水道法の趣旨は、将来の人口減少等を見据えて広域化や官民連携を推進し、効率的な事業運営と水道経営基盤の強化を目的としたものである。 現在、呉西6市においては、下水道は流域下水道が整備されているが、水道は各市それぞれが単独で運営しており、将来に向けて現行を維持することは難しいと考えている。料金格差等の問題はああるものの、射水市や砺波市、氷見市とは既に緊急時に応援給水できる管路網は整備されており、水運用の効率化や資材発注、包括的業務委託や入札など、共同で行うことにより効率化できないか議論している。
B 委員	広域化について、国が基本方針を示すなかで、どのようなスケジュールで進められているのか。	上下 水道局	国の指示で平成29年に県が主導し、各市町村・事業体を集めた広域化検討体制が設立され、各々の経営状況等を踏まえて検討が進められ、平成30年度末には、県が広域連携の検討結果を取りまとめる予定である。 また、経済圏・生活圏などで繋がりのある呉西6市で別途検討会を立ち上げ、事業統合にこだわらず、維持管理部門の統合、施設の共同化など様々な方策を検討・協議しているところである。また、災害時の応援給水体制や技術の継承のための合同研修についても、段階的に協議していきたいと考えている。 こうしたなか、国は県に対し、平成34年度までに県内水道広域化推進プランを策定・公表するよう求めている。
D 委員	安全な水が当たり前水道から飲めるのが日本の水道の良いところと考えている。 厳しい品質管理が求められる中で、水道工事従事者の技術的な資格にはどのようなものがあるか。	上下 水道局	水道工事に携わるには、配水管・給水管を施工するそれぞれの資格が必要であり、熟練技術者の指導のもとで実務経験と知識を積み重ねて資格を取得されている。